

講義コード	1100111402	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員	池尾 和人	開講期	第1期
科目名	金融論1B							池尾 和人	第1期
履修前提条件					備考				
授業の目的	金融論1は、「基礎編」として位置付け、大きく3部から構成される。第1部では、講義の概要を説明した上で、金融取引の意義とその様式について説明する(第1回～第5回)。第2部では、決済と信用創造について解説する(第6回～第9回)。それに引き続き形で第3部では、金融政策をめぐる諸論点について講述する(第10回～第14回)。最後の第15回は、講義全体の復習とまとめにあてる。								
到達目標	金融取引の社会的意義について説明できる。銀行の仕事の内容が説明できる。金融政策をめぐる新聞等の報道が理解できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業1コマについて、2時間の予習と2時間の復習(計4時間)を行う必要がある。授業は15回なので、全体で60時間以上の授業外学修を行うことが求められる。授業外学修で取り組むべき課題や参考文献等については、適宜指示する。								
授業計画	<p>【第1回】概説：金融取引とは</p> <p>【第2回】資金とリスクの移転</p> <p>【第3回】審査とモニタリング</p> <p>【第4回】相対取引と市場取引</p> <p>【第5回】直接金融と間接金融</p> <p>【第6回】決済機構と貨幣</p> <p>【第7回】中央銀行の役割</p> <p>【第8回】銀行と信用創造</p> <p>【第9回】ベースマネーとマネーストック</p> <p>【第10回】金融政策の目標</p> <p>【第11回】伝統的な金融政策</p> <p>【第12回】非伝統的な金融政策</p> <p>【第13回】利率の期間構造</p> <p>【第14回】金融政策の効果</p> <p>【第15回】まとめ</p>								
成績評価の方法	基本的に期末試験の成績に基づいて評価する。ただし、授業への取り組み姿勢を考慮する場合がある。								
フィードバックの内容									
教科書	『現代の金融入門【新版】』池尾和人(筑摩書房)2010								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、経済学部で定めるオフィスアワーにて受け付けます。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付ける予定です(利用方法は、ポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。								
その他									